

総合的な学習の時間の実践

旭川市

総合的な学習
5年

こだわりの栽培方法から学ぶ

『ぼくらの水田で お米づくりにチャレンジ』

<http://www.fan.hi-ho.ne.jp/douseiren/>

この指導案は、上記のHPよりダウンロードすることができます

単元の概要 と 単元構成

近年、食品の安全性についての報道は、子どもたちにも関心がある話題です。そこで、5年生の社会科の稲作農業の学習とも関連させながら、学校の水田で無農薬栽培の体験活動を行ないました。指導者の方から、無農薬にこだわる生き方そのものを学ぶことができました。また、「食」や「環境」などの観点から総合的に稲作を学び、ゲストティーチャーの生き方を考えることを通して自らの「食」に対する見方、考え方、そして生き方を見つめます。

学習活動の流れ（32時間）

お米の苗を育てよう（8）

- ・種籾を卵パックに蒔く
- ・田起こし
- ・ゲストティーチャーとの交流
- ・代掻き
- ・田植え

水田で育てよう（9）

- ・ゲストティーチャーの水田を見学
- ・パネルディスカッション※
- ・日常のお世話

収穫しよう（9）

- ・稲刈り
- ・もみすり
- ・精米
- ・炊飯

お世話をまとめて伝えよう（6）

- ・発表会

「みんなの苗で田植えができます。」と、ゲストティーチャーの優しくて力強い一言が大きな自信となりました。

農薬について調べるほど、農薬の便利さやよさがわかり、無農薬の農法と比較する中で、葛藤がうまれました。

実際に無農薬のお米を作る中で、食や環境を学んでいきます。ゲストティーチャーとのかかわりを効果的に生かしていききました。何度も繰り返して交流することで、様々な知識を得ることにつながります。



ゲストティーチャーとの出会い

教材・活動の Point!

1. 種籾から田植えへ

種籾から田植えまでの「自分の育てた苗で田植えがしたい」「うまくできるだろうか」という思いを大切に、ゲストティーチャーと出会わせました。「だいじょうぶ」という温かい一言に自信をもった子どもたちは、にぎやかに田植えを行い、自分たちの水田を完成させました。

2. 無農薬栽培について考える

パネルディスカッションで「無農薬栽培を考える」話し合いをしました。子どもたちが調べたことや体験したことからの発言を、ゲストティーチャーに、分かりやすく答えていただきました。例えば、アイガモのことを調べた子には、アイガモが水の中で土をかくことが稲にとって非常に良いことであるという補足を加え、適切な価値付けがされたのです。



3. 収穫から精米へ

稲刈り後には、ゲストティーチャーが運んできた足踏み式脱穀機や千歯こきを使ったり、すり鉢と野球ボール、ペットボトルと棒を使用しての籾摺りをしたりと、手作業の体験をたくさん行いました。精米ののち、釜で炊飯をしてゲストティーチャーとともに味わいました。手作業の大変さと喜びを学ぶことができました。

